

JENDL-3以降の計画検討小委員会  
第7回会合議事録

日時 昭和61年6月20日(金) 13:30~17:00  
場所 原研東海研究所 研究2棟221号室  
出席者 中沢(東大工), 梶山(東北大), 吉田(NAIG),  
片倉, 中川, 長谷川, 水本(原研)

配布資料

- 23 前回会合議事録
- 24 神田先生からのコメント (中沢)
- 25 大学における核データ測定活動の将来動向 (梶山)
- 26 原研における核データ分野の今後 (水本)
- 27 具体的活動計画の提案 (中沢)
- 28 報告書, 目次等, 担当者案 (中沢)

議事

1. 前回会合議事録を了承した。なお, 中間報告に対する神田先生(九大)からのコメント(資料24)が紹介された。
2. 大学における核データ測定 (梶山)  
大学関係の動向, その特殊性等につき資料25により説明した。特に, 現在では核データを測定することのみでは修士とか博士論文にならず何のために測定し, どのような効果があるか, 又測定上の工夫は何かなど工学的位置付けが重要となっている。その意味では核データ測定はそれに興味をもっている教官の存在が大きいので, そのようなところの研究活動を設備面等でサポートすることが大切であるとまとめた。

### 3. 原研における核データ測定

(水本)

実際の研究者の意見についてアンケート調査した結果をもとに、リニアック、タンデム、FNSにおける測定の動向と問題点について説明。リニアックでは年間2~3核種は継続的に測定がなされる予定、但しアクチニド関係は人員面から困難、タンデムでは10~20MeVでのデータ測定が計画されている。なお、人員不足による制限、核データ測定への要求度の低下の問題がありこの面で大学との協力あるいは核データ利用者とのコンタクト、更には測定の半自動化等についても検討していく必要があるとまとめた。

### 4. 最終報告のまとめについて検討

具体的な今後の活動計画の提案について、6月26日(木)のシグマ研究委員会にて報告する案の内容が資料27により説明され、大筋として了承された。

この原案をもとにシグマ委でのコメントを含め答申案を作成し、それに対し、各委員からの意見、修正、コメントを頂くこととした。

又、この答申書以外に調査報告書をJAERI-memoの形でまとめることについて目次案、担当者案が検討され資料28の通り進めることとなった。核データ研究会で配布することより逆算し8月末に印刷依頼、7月末に原稿を中川氏宛提出のスケジュールで考えることとした。又、内容には資料として議事録を追加すること、御協力頂いた多くの方々に謝辞をしっかりと書くこととした。